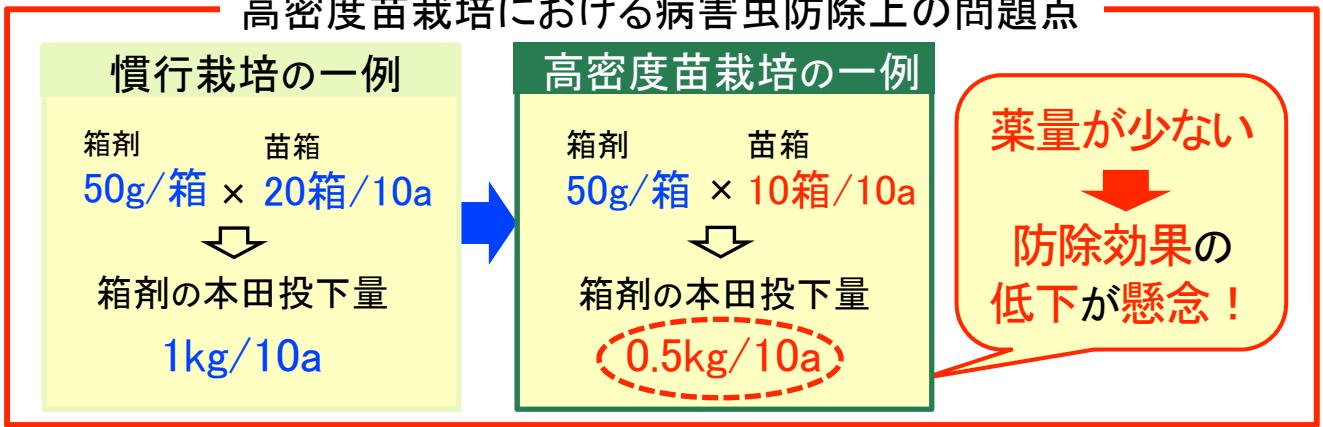


水稲高密度苗栽培におけるフルピリミン・プロベナゾール箱粒剤の側条施用を用いた病害虫防除

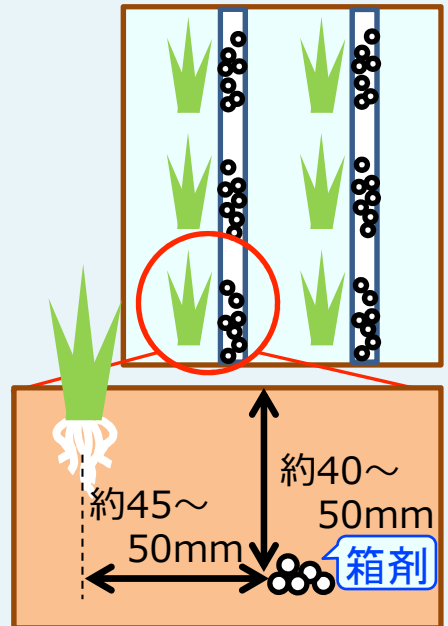
高密度苗栽培における病害虫防除上の問題点



新しい
薬剤処理法

移植時側条施用(1kg/10a)で薬量の維持が可能に!

専用の機械で移植と同時にイネ株の横に箱剤を処理する技術



使用薬剤によって効果が異なります!
主要病害虫に対し、フルピリミン・プロベナゾール(2%、24%)箱粒剤は実用性のある防除効果を示します

鳥取県の場合



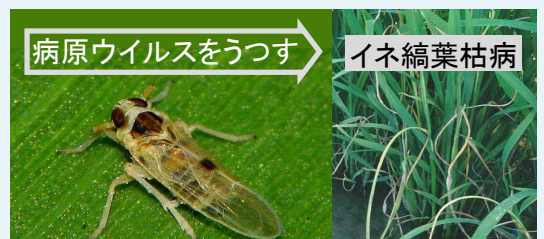
水稲の最重要病害

いもち病(葉いもち)



本田初期の重要害虫

イネミズゾウムシ



病原ウイルスをうつす

イネ縞葉枯病

ヒメビウンカ

※高密度苗移植栽培については「コシヒカリの高密度苗移植栽培における適正栽植密度とその経営効果」を参照

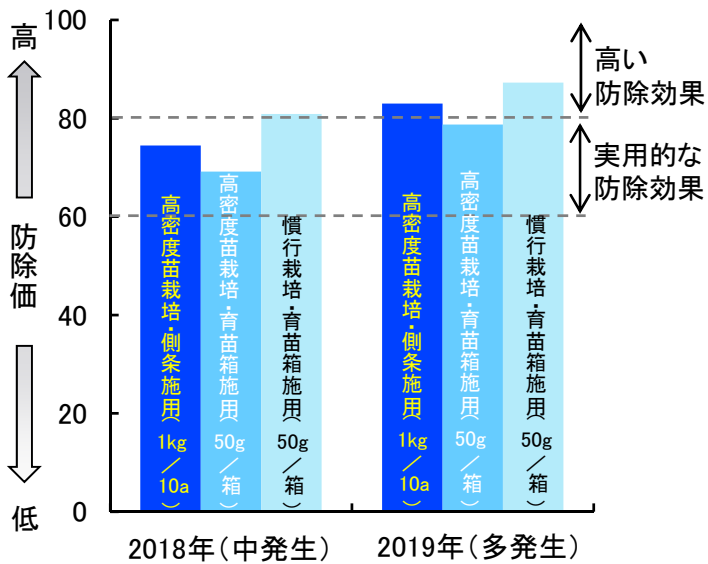


図1. プロベナゾール(24%)剤の移植時側条施用のイネいもち病(葉いもち)防除効果(中間地)

注)試験場所:八頭町志谷(標高約180m)、供試薬剤:Dr. オリゼフェルテラ粒剤、品種:‘きぬむすめ’、移植日:6月5~6日(高密度苗栽培 9箱/10a、慣行栽培 14~17箱/10a)

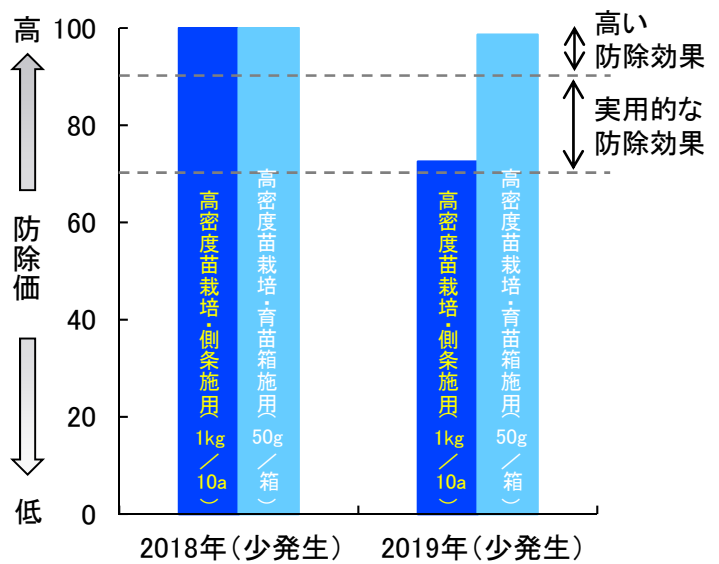


図2. フルピリミン(2%)剤の移植時側条施用のイネミズゾウムシ防除効果

注)試験場所:鳥取市橋本(鳥取県農業試験場)、供試薬剤:Dr. オリゼリディア箱粒剤、品種:‘きぬむすめ’、移植日:5月23~24日(9箱/10a)

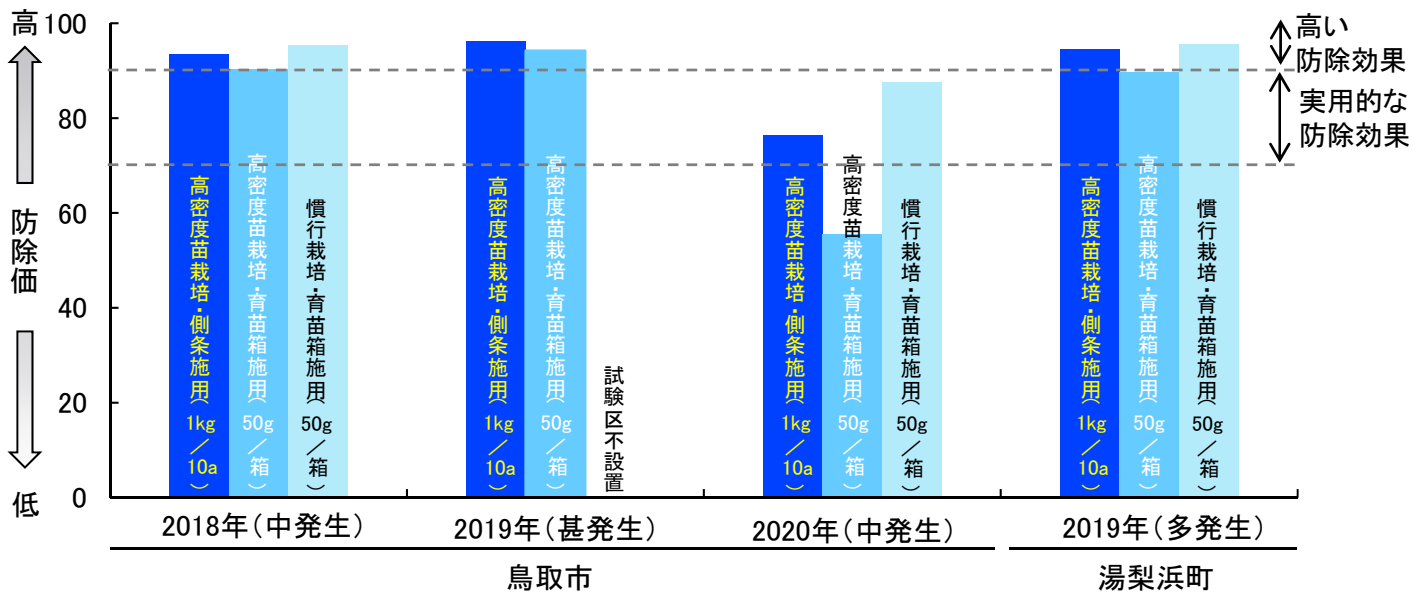


図3. フルピリミン(2%)剤の移植時側条施用のヒメトビウンカ防除効果

注)試験場所:鳥取市橋本(鳥取県農業試験場)もしくは湯梨浜町水下、供試薬剤:Dr. オリゼリディア箱粒剤、品種:‘きぬむすめ’、移植日:5月23~24日(高密度苗栽培 9箱/10a、慣行栽培 18箱/10a)

注意事項

- ・本情報の対象は、鳥取県の水稲高密度苗移植栽培を行う平坦地~中間地です。
- ・箱剤の側条施用には、専用の側条施薬機が必要です。
- ・2022年1月24日現在、フルピリミン(2%)およびプロベナゾール(24%)を含有し、側条施用の農薬登録がある薬剤には、Dr.オリゼリディア箱粒剤があります。
- ・本剤の側条施用はセジロウンカおよびトビイロウンカに対しても実用的な防除効果を示します。
- ・近年、高密度苗栽培において、一部の箱剤では箱当たり処理量の増加(50~100g/箱、1kg/10a相当)が可能となっていますが、本処理の鳥取県における実用性は検討中です。
- ・薬剤は規定量を均一に散布しましょう(薬剤の防除効果に影響します)。

本書から転載複製する場合には必ず鳥取県農業試験場の許可を受けてください

(お問い合わせ先)
鳥取県農業試験場 環境研究室
電話 0857-53-0721